# 図書館だより

no.233

2021（令和3）年 11 月 16 日発行
編集・発行　福島県立図書館
〒960-8003　福島市森合字西養山 1 番地
Tel 024-535-3218
Fax 024-536-4787
https://www.library.fcs.ed.jp/

## ≪ 展 示 の ご 案 内 ≫

### 「海図 150 周年記念展示 ～海図の歴史から海を学ぼう～」

海図 150 周年を記念して、海図の印刷に用いた銅板や水深を測る計測機器などを展示します。

期間：11/5（金）～12/1（水）
場所：企画展示コーナー

場所：企画展示コーナー
期間：12/3（金）～2/13（日）

福島の新聞のはじまりは…？昔と今の新聞の違いは？
などが分かる当館で保存している貴重な新聞を展示します。

### 「新聞のはじまり～福島の新聞の昔と今～」

### 「YA の本～物語の世界～」

場所：ロビー展示コーナー
期間：10/8（金）～12/1（水）

### 「目が躍る～雑誌で楽しむ芸術の秋～」

場所：軽読書コーナー
期間：10/8（金）～12/1（水）

### 「温泉」

場所：館内中央
　　雑誌展示コーナー
期間：11/5（金）～1/5（水）

### 「福島県内の公共土木施設の整備効果 ～安心・安全、生活の質の向上、生産性向上効果～」（前半）
### 「令和元年東日本台風からの復旧、防災・減災対策の取組」（後半）

場所：ロビー展示コーナー
期間：12/3（金）～1/5（水）

## ≪イベントのご案内≫

### 「令和３年度 朝河貫一博士から学ぶふくしまの未来 講演会」

先着 100 名

日時：令和 3 年 11 月 28 日(日)14 時～15 時 30 分
場所：福島県立図書館　講堂
講師：早稲田大学文学学術院教授　甚野尚志氏
申込：電話(024-535-3218)または
　　来館にてお申込み下さい。

### 「世界のことばでおはなしかい」

日時：令和 3 年 12 月 18 日(日)午前中(詳細未定)
場所：福島県立図書館
対象：5 歳～小中学生と保護者 20 名
申込：要申込。
詳細が決まり次第、HP でお知らせします。

## ≪当館サービスのご案内≫

**みんゆうデジタルアーカイブが使えるようになりました！**

福島県立図書館では、10 月から「みんゆうデジタルアーカイブ」がご利用いただけるようになりました。福島民友新聞のデータベースで、2003（平成 15）年 5 月 15 日～利用日前日までの最終版の紙面について記事検索・閲覧が可能です。

**≪年末年始のお知らせ≫**

**令和 3 年 12 月 27 日(月)から**
**令和 4 年 1 月 4 日(火)までは、**
**年末年始の休館日です。**

# 新着案内　各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

## 人文・自然・社会

**『職業設定類語辞典』　アンジェラ・アッカーマン，ベッカ・パグリッシ／著　新田 享子／訳**
**フィルムアート社　2021.6　901.307/ｱｱ 216**

何か創作してみようとする時、必要なのはキャラクター設定です。特に職業は、その人物を特徴づける重要なファクターとなります。

本書は、冒頭 88 ページにおよぶ解説や付録があり、124 種を五十音順で引くことができます。職業ごとに、「設定」に必要な 8 つの情報が記載され、別枠の著者からのアドバイスがあります。ちなみに「司書」もあり……興味深かったです。

もちろん、小説でも書いてみようかな？と思わなくても、楽しめる 1 冊です。

**『時間の日本史　日本人はいかに「時」を創ってきたのか』佐々木　勝浩／著，井上　毅／著，広田　雅将／著，細川　瑞彦／著，藤沢　健太／著　小学館　2021.8　449.1/ｻｶ 218**

日本人は時間に正確だとよく言われますが、昔は時間にルーズだったことをご存知ですか。近代化に伴って「定時法」が導入されたことにより、日本人の時間に対する意識は変化していったそうです。

本書では、そんな日本人の時間感覚の変化の他にも、暦・時刻制度の変遷や、時計産業がどのように発展してきたかなど、時間にまつわる日本の歴史をそれぞれの専門家が詳しく解説しています。

私たちの生活に当たり前に存在する「時間」について、改めて考えるきっかけをくれる本です。

**『清六の戦争　ある従軍記者の軌跡』　伊藤　絵理子／著　毎日新聞出版　2021.6　289.1/ｲｾ 216**

毎日新聞社勤務の著者が昭和初期に同社の前身である東京日日新聞に記者として勤めた、曽祖父の弟伊藤清六氏の軌跡をたどります。

郷里に遺された手紙、配信した記事、従軍した部隊の戦闘記録、周囲の人々の残した文章などから清六氏の足跡は、郷里の岩手から宇都宮、山形、東京、そして従軍記者として派遣された上海、南京、フィリピンへと続き、最後に山中で戦病死して途絶えます。

読み進めるなかで、筆者は時を超えた同業者である清六氏の取材を、様々な思いを持ちながら進めていることがわかります。貧困の解消に課題意識を持つ記者としての側面の一方で、検閲に抗することなく戦争の遂行に協力した新聞人の一人としての側面を持つ清六氏を描くことは、一人の「人」としての清六氏を見つめることのできる筆者ならではの向き合い方だったのだろうと感じます。

戦争を知らない世代が増え、様々な記憶の継承や過去の出来事との向き合い方を問われるこの時代に、示唆に富む 1 冊です。

## 児童・児童図書研究

**『ちいさなぬくもり　66 のおはなし』 森本 俊司／文，ディック・ブルーナ／絵　ブルーシープ　2021.6　J726.6/ﾌﾞ**

ミッフィーとその生みの親、ディック・ブルーナさんにまつわるおはなしがイラストやスケッチとともに紹介されています。ブルーナさんの描くキャラクターやストーリーには多くのこだわりややさしさが込められています。その一つとして、ブルーナさんは絵本を全てハッピーエンドで描きました。寝る前に絵本を読んでもらう子どもたちに穏やかな気持ちで一日を締めくくってもらうためです。

## 雑誌・新聞

温泉宿特集のある雑誌をご紹介します。

**『婦人画報』**NO.1421，2021.12 月号，Z/051/F5
特集：蟹の宿、雪の宿

**『サライ』**第33巻第12号，2021.12月号Z/051/S16
大特集：名湯で心身を浄める

**『旅の手帖』**第 45 巻第 12 号，通巻 596 号，2021 年 12 月号，Z/291/T1
特集：文化財の極上温泉宿

**『旅行読売』**通巻920号，2021年12月号，Z/689/R1
特集：秘湯の宿で孤浴の時間

## 地域

**『三春タイムズ』　長谷川 ちえ／文　信陽堂　2021.3　L914.6/H12/1**

東京から三春町へ移住した著者が、三春町での暮らしや風景、そこで出会った人々について記したエッセイ集です。立春から大寒までの二十四節気の暦の流れにそって、日々の出来事が穏やかに優しく綴られています。初めて暮らす土地で出会う人、もの、自然…それらに対する著者の新鮮な驚きや喜び、楽しさは読み手にも伝わり、一緒に体験しているような気持ちになります。素描家の shunshun 氏により添えられたイラストも温かで味わい深く、心がほっとする一冊です。

**『「ぼっと…」と「うそんこ」　福島飯舘の方言』渡辺 富士男／著　渡辺富士男　2021.7　L818/W2/1**

飯舘村の方言を集めた資料です。著者が長年メモに書き溜めてきたという、地元飯舘の言葉が多数収められています。単語は 50 音順に収録され、それぞれ用例や標準語訳も掲載されています。

本書の書名にもなっている「ぼっと」「うそんこ」ももちろん掲載されています。それぞれどんな意味の言葉なのか、ぜひ実際に本書を確認してみてください。この言葉が話された、あたたかく優しい空気までも感じられるようです。